

クラス通信

麻生校・円山校・札幌駅前校

クラスユニック

中学部 令和5年5月号

5月16日発行

保護者の皆様へ

理事長・校長 福島新四郎

この「クラス通信」を通じてクラスユニックとご家庭との連携を密にし、お子様の受験準備の一助となるようお願い、発行をしています。生徒の皆さんの成功を祈りつつ、時には辛口の内容もあるかとは存知ですが、意のあるところをお汲み取りいただき、とにかく「合格」の二文字を目指して指導します。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

新年度指導方針・指導内容

中学部担当

円山校・麻生校 西野

札幌駅前校 原

4月から新年度も始まり新学年になって1ヶ月余り、間にはゴールデンウィークも挟みましましたので、今、中学新学年としての日常に慣れたところでしょうか。

当校での新学期も1か月が過ぎました。ここでは、高校入試について、また新年度の指導方針や指導内容についてもお伝えさせていただきたいと思います。



1. 新たな公立高校入試問題の特徴と入試に向けての指導方針

3月に実施された2023年度の北海道公立高校入試はいろいろな意味で驚かされるものでした。過去問を中心に対策を練ってきた受験生や我々指導者にとっても、ある程度の新傾向は想定していたものの、予想を大きく上回る変更にも面食らった入試であったかもしれません。

個人的には、私自身が受験した60点満点初年度を大きく上回る驚きがありました。特に国語では、「文学的文章」（小説）が出題されず、また筆者の考えを問う問題に「自分自身の体験を例にして」との条件が入り、より文章構成力が問われる出題もありました。数学も従来より出題分野の偏りが大きく、上位者でも点数が伸び悩んだ人が多かったようです。

その他、英語を中心に中間点の設定が多かったのも特徴です。従来、道教委の発表する配点では、“all or nothing”の問題が多かったのですが、裁量問題が廃止されたことにより、そのままではトップ校の受験生では差がつかない、ミスが合否を分ける結果となり実力に応じた選抜が難しい危惧がありました。（実際は、トップレベルの高校では公式の採点基準とは別に中間点基準があったのではないかと私は思っています。その方が受験生の努力が報われる入試であると言えますし。）部分点・中間点の増加は採点を行う高校の先生方の業務を大変なものにする側面はありますが、妥当性の高い入試結果が得られやすいことを考えると、大部分の受験生には良いことですし、今後もそういった傾向は続いていくと思われまます。

生徒一人一人がそれぞれの志望校合格を勝ち取るためには、各教科の論述を中心とした出題に、いかに「点数を積める」答えが書けるかが重要になってきます。従って、そういった演習や課題を増やし、○×だけではないしっかりしたチェックや足りない部分などのアドバイス・添削などにもより力を入れていきます。

<裏面に続く>

2. 内申点・ランクの重要性と使用教材について

高校入試の合否判定は、公立高校はもちろんほとんどの私立高校でも入学試験の点数（学力点と内申点の総合評価）で行われます。

したがって、中1の段階から内申点を意識した評定の獲得が重要な課題となります。5段階評価で5を獲得できるのは、相対評価がなされていた時代には学年で7%のみでしたが、今は絶対評価が取り入れられ、その限りではなくなりました。

然るべき内申点を確保することは、受験戦略にきわめて重要といえます。ただ、合否を左右するというに留まらないファクターです。

学校の進路指導は、公立本命の受験生に対して、併願する私立高校については単純な内申ランクに基づく輪切りでなされると言っても過言ではありません。それは私立の場合、それぞれの高校の考える内申ランク以上ならば、ほぼ合格できると考えられるからです。（例外が一部ありますが、お知りになりたい場合はご連絡を。）

前述した「受験戦略」というのは本命の公立高校に対してボーダー線上またはそれ未満の場合に、然るべき私立高校（コース）の合格が見込める内申を確保していれば、行きたい学校へのチャレンジをしやすくなるということです。もちろん、公立への合格可能性も内申アップで高まるのは言うまでもありません。

<そのために必要なこと>

①ワークなどの提出物の期限厳守（遅れが生じただけで5はとれないと考えるべき）

②定期試験（一斉テスト等）での高得点

この2点に尽きるといってもよいでしょう。

故に、麻生校では、②の試験対策として、教科書準拠のワークを配布していきます。これは試験時期の授業のみならず、宿題など自宅学習のツールとしても使用していきます。

一方で、試験（内申）のための教科書中心の勉強だけでは、高校生になってからの地力を蓄えるものとは必ずしも言えませんし、何より、高校入試の学力点の要請には不十分です。

よって、5教科の教科書準拠ではないテキストをメインに据えて、実力養成を図ります。段階的に各科2種類のテキストを配布して使用していきますが、どちらも不可欠なものであるとご理解ください。

円山校・駅前校では、各生徒の要望や実情を踏まえて、学校教材をメインとした教材選定と個別指導を行います。

最後に、学習内容や使用教材等で、ご質問・ご要望などありましたらどうぞお気軽にご連絡下さい。今後ともよろしくお願ひ致します。



<5月～6月の予定>は右下の「QRコード」からHP上でご覧下さい。緊急時連絡はラインでお知らせ致します。

麻生本校 ☎011-716-7162 札幌駅前校 ☎011-299-6030

円山校 ☎011-613-7755

麻生本校 小中学部



円山校 中学部



札幌駅前校 高校部

